

= 100回展めざし再スタート =

第51回宮城県芸術祭

文芸部は初の作品公募



来場者に展示解説する写真部の千葉部長

第51回宮城県芸術祭が、9月26日からの写真、絵画、華道、彫刻の各展を皮切りに、11月27日の閉会式までの2カ月間にわたって開かれている。特に作品公募が定着し、県民への広がりが進んでいる。

第51回芸術祭の開会式は、9月26日午前9時45分から、せんだいメディアテーク5階の写真展会場で行われた。式典には主催7団体の宮城県芸術協会、宮城県、仙台市、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、河北新

報社、宮城県文化振興財団のほか協賛・後援団体の代表と来賓、芸協役員、写真、絵画、華道、彫刻を中心とした会員らが多数出席した。

芸術祭会長の大場尚文芸術協会理事長が「芸術は何物にも替えがたい心のよりどころ。これらを次代に継承するため諸活動に取り組みたい」とあいさつ。続けて「潤いと活力を与える文化活動の輪を一層広げることになる公募展は広がりを見せている。表現と想像に垣根はなく、多くの人に足を運んでいただきたい」と述べた。

また芸術祭名誉会長の村井嘉浩宮城県知事（代読・青木直之環境生活部次長）は「芸術祭は51回を数え、県民にしっかりと定着し、親しまれている。年に



公益社団法人
宮城県芸術協会
(郵便番号 980-0802)
仙台市青葉区二日町16-1
二日町東急ビル5-B
電話 (022) 261-7055
FAX (022) 214-5184
E-mail:miyagi-geikyo@sunny.ocn.ne.jp
発行者 大場 尚 文

題号の背後にある芸協のシンボルマーク「雲」は、様々な分野の芸術家達がふんわり集まり、巻雲のように盛り上がりつつ纏まった姿を表す。創設当初の理事安倍郁二氏によるデザイン。

一度の芸術の発表の場に県民の多くが参加することで、宮城県での芸術文化の発展がある。発表する機会を促すことは、震災復興に通じることにもなる」とあいさつした。

引き続き華道部、写真部、絵画部、彫刻部の順で、それぞれの作品紹介を行った。各部に共通することは、今回は例年以上にテーマを鮮明にして、鑑賞者が鑑賞しやすい展示環境を作り上げたことが特筆される。

この後、主催団体代表者によるテープカットで芸術祭が開幕した。続いて開会式出席者による作品観覧に移り、写真、絵画、華道、彫刻の各部長による説明が行われた。

メディアテークでは10月15日まで、絵画展、彫刻展、華道展、写真展、書道展、工芸展が開催

閉会式は11月27日

今年もホテルメトロポリタン仙台で

第51回宮城県芸術祭の閉会式は、11月27日午後6時から、ホテルメトロポリタン仙台で開催される。表彰式のと各賞の受賞者を囲んで、来賓と芸協会員による祝宴が開かれる。

部門を超えた会員同士が交

され、絵画展・彫刻展・写真展では公募展を同時開催。華道展でもチャレンジ席を設けるなど、それぞれで芸協会員以外の作品も展示され、会員との交流が図られた。また「新潟地方の文学と警女唄」と題した文学散歩は9月30日、10月1日の両日に実施され、多くの参加者で盛会となった。文芸部では初めての文芸作品公募を行い、文芸祭で上位入賞者を表彰。ジュニア部門の表彰には入賞者の小・中学生の父母・教師らも同伴した。さらに、芸術祭開催期間中には仙台市内で茶会、音楽会、長唄演奏会を相次いで開催し、文芸年鑑も発行された。

巡回展は、工芸展がしばたの郷土館、絵画・書道展が東松島市コミュニティセンターでそれぞれ開かれる。

流できる数少ない機会でもあり、受賞者のもとより多くの会員の参加が望まれる。会費は6000円（当日会場受付で納入）。参加希望者は11月17日（月）まで、芸協事務局へ。

創立50周年記念「芸術ふれあい広場パートⅣ」 多彩に華やかに展開 芸協らしき「コラボ」に結実

芸術協会創立50周年記念「芸術ふれあい広場パートⅣ」が、10月4日、5日の2日間、せんだいメディアテーク1階オープンスクエアで開催された。

「芸術ふれあい広場」は、平成13年の宮城県芸術協会社団法人化10年を記念して開催されたのが始まりで、新しい試みとして芸協各部門による多彩なコラボレーションが発表された。その後の回を重ね、今年は第4回を迎えた。

〈第1日〉開会は大場尚文理事長の開会挨拶に続いて「いけばな賛歌〈秋をいける〉」をメインテーマに華道、絵画、洋楽、邦楽、洋舞、文芸による大コラボレーションが繰り広げられた。バックステージには、コラボのベースとなる天井まで届くような素晴らしい構成の活け花が、

華道14流派合同で七割程できあがっている。その完成まで尺八、箏、ピアノの演奏に乗せながら観客の前で花を活けるという東北初の大規模実演が行われた。活け終えた作品は華麗に秋の雰囲気伝えて、圧巻であった。

さらにバレエが披露され、活け花作品と共に展示された3枚の大作の絵について、絵画部から解説がなされた。その模様を文芸部（短歌・俳句・川柳）の各会員が即詠し、朗読した。

次いで書道部による短歌2首、俳句5句の揮毫パフォーマンスがあり、観客は熱心に見守った。

最後は演劇部による英語狂言「しびり」が演じられた。演劇部の参加は初めてだったが、興味深い演出で好評を博した。

午後2時から6時半まで長時間のコラボレーションだったのが、多くの観客が充実の時を過ごした。

〈第2日〉この日は洋舞、洋楽のコラボからはじまり、茶道体験、邦楽、洋楽の演奏など夜7時半まで続いた。

まず、洋舞とピアノ五重奏で開演。18名の少女のバレエは清楚で可愛らしく、大きな拍手に

第51回宮城県芸術祭・宮城県芸術協会創立50周年記念

芸術ふれあい広場Ⅳ

～半世紀の精華～



日時 10月4日(土)・5日(日)

会場 せんだいメディアテーク1F

入場無料

4日(土) 14:00~18:30	5日(日) 午の部 13:00~17:30 夜の部 18:00~19:30
●華道、絵画、文芸、洋楽、邦楽、洋舞、演劇のコラボレーション ～華道14流派による東北初の大規模実演～	●洋舞と洋楽のコラボレーション ●邦楽/三曲 ●茶道体験コーナー ●邦楽/長唄
●書道、文芸、洋楽のコラボレーション	●演劇～未来への懸け橋～
●演劇～英語狂言～	

主催 (公社)宮城県芸術協会・宮城県・仙台市・宮城県教育委員会・仙台市教育委員会・河北新報社 (公財)宮城県文化振興財団
協賛 宮城県教育委員会・宮城県文化振興財団・宮城県芸術協会・宮城県教育委員会・仙台市教育委員会・河北新報社
協賛 宮城県教育委員会・宮城県文化振興財団・宮城県芸術協会・宮城県教育委員会・仙台市教育委員会・河北新報社
協賛 宮城県教育委員会・宮城県文化振興財団・宮城県芸術協会・宮城県教育委員会・仙台市教育委員会・河北新報社
協賛 宮城県教育委員会・宮城県文化振興財団・宮城県芸術協会・宮城県教育委員会・仙台市教育委員会・河北新報社
協賛先 (公社)宮城県芸術協会 TEL.022-261-7055

包まれた。

次は邦楽(箏三弦・尺八)で、「八千代獅子」など三曲が演奏された。次いで、茶道体験「おもてなしの心」ではお点前の披露と所作の解説が行われ、茶道部による呈茶席も設けられ盛況であった。

お茶を頂いた後、再び邦楽部による「操三番叟」など長唄が披露された。

舞台転換のため30分の休憩をはさみ、ピアノのコンサート。8曲が演奏され、美しい歌声が会場に響いた。二日間で七百人余りの観客が訪れ、県民に開かれた記念行事となった。

「しびり」が演じられた。演劇部の参加は初めてだったが、興味深い演出で好評を博した。

午後2時から6時半まで長時間のコラボレーションだったのが、多くの観客が充実の時を過ごした。

〈第2日〉この日は洋舞、洋楽のコラボからはじまり、茶道体験、邦楽、洋楽の演奏など夜7時半まで続いた。

まず、洋舞とピアノ五重奏で開演。18名の少女のバレエは清楚で可愛らしく、大きな拍手に

新入会員

- 【書道部】
 - ▽東海林耕永(仙台市太白区)
 - ▽品掘艸華(仙台市泉区)
- 【洋楽部】
 - ▽我妻健太(刈田郡蔵王町)
 - ▽早坂知子(仙台市青葉区)
- 【邦楽部】
 - ▽大沼萩波寿(仙台市青葉区)
- 【茶道部】
 - ▽(裏千家) 佐藤宗友(柴田郡川崎町)
 - ▽(宗偏流) 後藤宗淑(仙台市青葉区)
 - ▽田中宗結(柴田郡川崎町)

創立50周年記念事業の第2弾として、公益財団法人宮城県文化振興財団・韓国芸術文化団体総連合会大邱広域市連合会と共催し、11月1日(土)に東京エレクトロンホール宮城において「半世紀の精華」開催する。

公演は四部構成で、4時間半に及ぶ大公演となる。また、第3部には大邱との国際芸術交流事業を組み込み、大邱訪問団による現代舞踊や音楽演奏が記念事業に華を添える。

公演終了後、青葉区大町の「アークホテル仙台青葉通り」で、柳整佑会長をはじめ16名の訪問団と芸術協会会員との交流懇親会が開かれる。

11月1日

宮城県芸術協会
創立 50 周年記念

芸術ふれあい広場 ^{パート} IV 写真特集



大場尚文理事長の開会あいさつ



邦楽部による長唄演奏



洋楽部によるピアノ三重奏の演奏



華道部による「秋をいける」の実演



書道部による揮毫パフォーマンス



茶道部によるお点前の解説



演劇部による英語狂言



舞踊部の振付によるバレエ



文芸部による即詠披露

原点回帰の旅

理事長 大場 尚文

芸協の原点を見詰め直し、新しい発展への力を得たい。創立50周年の記念すべき年に当たり、そうした思いから初めての試みとして、旧花山村方面での移動常任理事会を企画した。

芸協の会員には広く知られている通り、50年前の芸協旗揚げは花山村の湖畔亭での会合がきっかけであった。草創期の高潔の士たちの熱い思いの文は残像として、この地に在るはずだ。そんな衝動が私を突き動かした結果の旅であった。参加者は理事長の私と雫石、渡部、佐々木、池田、中塚の各執行理事。

9月1日朝、2台の車に分乗して、最初の訪問地・金成へ。当協会工芸部運営委員村上世一氏の大久保窯を見学した。地元では「栗御殿」と称されているほどの、見事な栗材を生かした母屋兼作品展示空間には、ただ圧倒される思いであった。

自然薯の館で昼食をとった

後、花山湖畔亭や御嶽神社の跡地、神木である大銀杏「樹影」の在所などを散策。協会創立のころに思いをはせた。

鳴子のこけし館を見学して、宿泊先の鳴子ホテルに到着。午後4時から6時まで常任理事会を開き、新時代の芸協について意見を交わした。

夕食後、中塚執行理事は所用で帰宅し、残る4人が宿泊。夜の部では雫石執行理事による川柳の「だんだん附」の番外講座を楽しんだ。

翌2日、一同は帰仙。それぞれに今回の1泊2日の「研修」を実りあるものにしよう、との決意を新たにしました。



昭和39年5月、宮城県芸術協会の結成はこの花山湖畔で話し合われた

文学散歩

新潟県の文学と瞽女唄を堪能

〔9月30日〕文学散歩の参加者42名を乗せたバスは定刻に出発し、一路新潟を目指した。

昼食後最初の見学地、新潟市寄居浜の松林の中で坂口安吾と会津八一の碑と、北原白秋の「砂山」の歌碑を見て、旧市庁公舎跡の「安吾風の館」へ。説明を聞きながらその生涯を辿る。次は幕末の越後長岡藩士河井継之助の記念館を訪ねる。河井の政治信条「民は国の本、吏は民の雇」に領きながら、1日目の見学を終えた。

午後6時、宿泊地の蓬平温泉に到着。懇親会恒例の自己紹介に親睦を深め、温泉で疲れを癒やした。

〔10月1日〕午前8時出発で越後高田に向かう。日本最古の映

文芸年鑑第45巻を発行

当協会文芸部による「2014年宮城県文芸年鑑」が10月15日付で発行された。通巻で第45巻目となる。

今回は、初めての試みだった文芸作品の一般公募の優秀作品を紹介するコーナーも設けた。

画館「高田世界館」で、記録映画「高田瞽女唄」鑑賞。瞽女は、三味線を弾きながら瞽女唄を唄う盲目の女性旅芸人。年間300日余り村々を旅して、唄や物語を聞かせ自立して生活していた。娯楽の少ない時代、村人たちは瞽女の来るのを楽しみ待ち、宿を用意して大切にしていた。昭和45年、国の無形文化財に指定されたがその後瞽女は絶え、現在DVDに記録が保存されている。地元の方の案内で、日本一の長さを誇る高田雁木通り



の散策を満喫し「写真」。その後「小川未明文学館」を見学した。バスの中の長い時間も瞽女唄や担当委員の解説、参加者の感想等を聞き、楽しく充実した芸協ならではの文学散歩であった。

五部門で初の作品公募

レベル向上に期待

＝文芸部＝

当協会文芸部は本年度、初めての試みとして、詩、短歌、俳句、川柳、エッセーの5部門で、一般からの作品公募を行った。協会の創立50周年を記念したものであったが、もう一つの試みとして芸術祭のイベントの一つである文芸祭の席上、上位入賞者の表彰を行った。

公募作品の応募状況は、初めての試みによる「知名度不足」

から、数的には期待したほどのレベルには達しなかった。ただし、上位入賞者を文芸年鑑で紹介したり、応募者の名前をすべて掲載した作品集を発行した試みには反響もあり、来年度以降の応募者増加には期待が持てる状況だ。質的なレベルの向上も期待でき、芸術祭の目玉の一つになっていくと思われる。

喜びの宮城県芸術選奨

平成25年度宮城県芸術選奨の授賞式が8月19日、宮城県美術館の講堂で行われた。当協会の会員では桜井忠彦（美術・洋画）及川茂（美術・彫刻）の2氏が芸術選奨に輝き、齋藤正和（美術・洋画）及斉藤梢（文芸・短歌）の両氏が芸術選奨新人賞を受賞した。



(美術・洋画)
桜井忠彦氏

昭和二十一年生まれ。宮城県芸術協会絵画部主任として、県芸術祭絵画展で公募部門や会員外若手作家の発表の場を中心となって新設。会員増と鑑賞者の拡大に貢献した。大作、抽象の「流転」シリーズで注目を集めている。

全国的評価の大賞を受けた事も無い私が昨年3月の個展など地域での活動を評価された事は嬉しく感謝申し上げます。地域文化は一人の大作家の力で育つ訳ではなく、

文化を愛好し支える多くの人々の力により成り立つものと考えています。今回の賞は私の非力を考えず底辺の一翼を担えとの期待の下に与えられたものと重く受け止め、更に制作精進するつもりです。



(美術・彫刻)
及川茂氏

昭和十五年生まれ。「伝統的な木彫技法」へのこだわりを通して、独自の造形思想に基づき半世紀を超す活動を続けてきた。生涯教育で伝統技術・美術の後継者育成に尽力。仏像の修理・修復でも、活躍している。

この度、宮城県芸術選奨を受賞したことを大変嬉しく思います。日本伝統の木彫、またその技法も衰退し、過去のものとなりつつある現在、その伝統的造形技法を継承し

創作を続ける私に光を当てて下さったことは誠に感無量でございます。「伝統」とは唯々受け継ぐことに非ず「温故知新」であると理解し、命の限り、その道を極めたいと思います。



(美術・洋画)
齋藤正和氏
(新人賞)

昭和五十七年生まれ。東北生活文化大で、版画による独自の絵画表現を追求。宮城県芸術祭絵画展や河北美術展で活躍し、東北生活文化大高校の教師として教え子から中央公募展の入賞者を出すなど、指導力も発揮している。

この度は芸術選奨新人賞を受賞し、これまで応援頂いた多くの方々我感到申し上げます。私は中学生の時に教本奈智子先生に美術部を勧められた事が美術を始めた機会

でした。その後も美術を学び、教育現場に精を尽くしながらも、傍らで自身の制作活動の時間を見つけ作家活動を継続できた事に幸せを感じております。今後は次代の芸術家である高校生達と共に宮城県の芸術文化を深めたいです。



(文芸・短歌)
斉藤梢氏
(新人賞)

昭和三十五年生まれ。平成二十五年六月に出版した第二歌集「遠浅」は、平成九年から二十四年までの作品を収録。特に名取市で東日本大震災で被災した体験を詠んでおり、多くの人に感銘を与えて歌壇でも高く評価された。

表現追求怠ることなく「みずからの生の証明」という、宮格二の言葉を胸に短歌を作っていました。自己と向き合うことから始まる孤独な創作ですが、先人の残した多くの作品が、私を

三十三年間支えてくれました。この度の宮城県芸術選奨新人賞受賞は、思いがけなく、身のひき締まる思いです。これからも、表現追求を怠ることなく、心の眼を清めつつ、心に依って詠んでゆく所存です。

表現追求怠ることなく

命の限り道を極めたい

高校生達と芸術深める

事務局日誌

会務報告

8・8 理事会
○新入会員（正会員）の承認について

後援

- ☆第67回春光会展 8月19日～24日
大崎市民ギヤラリー 諸絶の館 8月26日～31日
美里町近代文学館 8月22日～27日
東京エレクトロンホール宮城 9月5日～10日
せんだいメディアアテーク 9月12日
宮城野区文化センター 9月18日～21日
古川市民ギヤラリー 9月23日
☆第29回都山流尺八演奏会 9月26日～28日
大崎市民ギヤラリー 緒絶の館
☆全国美術館会議東日本大震災復興支援事業「浅井元義スケッチ展―石巻・30年前の家並み―」 10月7日～11月30日

カメイ美術館

☆平成26年度(第36回) 大伴家持のつどい短歌大会 10月12日
東北歴史博物館 10月12日

KIRIX サロン

☆第39回教育書道研究会学生部書道展 11月7日～12日
せんだいメディアアテーク 11月7日～12日

- ☆第58回仙台三曲協会定期演奏会 10月12日
仙台市民会館 10月13日
☆第15回日本歌曲と朗読の夕べ「四季の彩り」 10月13日
仙台市宮城野区文化センター 10月17日～22日
☆3014CAF ねぶユラ展(仙台展) 10月17日～22日
せんだいメディアアテーク 10月18日
☆第34回「日本の調べ」演奏会 10月18日
イズミティ 21 10月19日
☆斎藤みどりメゾ・ソプラノリサイタル 10月19日
イズミティ 21 10月24日～26日
☆第41回書道展・宮城書道研究会 登米市迫体育館 10月29日
☆子どもの村東北支援のための Charity Concert 10月29日
日立システムズホール仙台 10月31日～11月5日
野書人会展併催学生書道展 10月31日～11月5日
せんだいメディアアテーク 11月1日～3日
花夜咄 11月1日～3日
清泉古流華道会館 11月4日～11日
☆第5回青画会日本画展 11月4日～11日

- ☆第39回素心書道会書道展 11月7日～12日
せんだいメディアアテーク 11月7日～12日
☆「歌のアルバム3」なつかしの歌コンサート 11月9日
イズミティ 21 11月14日～19日
☆東北書道秀技展 11月14日～19日
せんだいメディアアテーク 11月15日
☆チルコロ・マンドリニスティコ フローラ第49回定期演奏会 11月15日
日立システムズホール仙台 11月18日
☆歌いつがれゆく日本の歌 11月18日
日立システムズホール仙台 11月20日
☆混声合唱団クルル・リュミエール第48回定期演奏会 11月20日
日立システムズホール仙台 11月22日～24日
ゼビオアリーナ仙台等 11月23日
☆第45回洋舞公演 11月23日
東京エレクトロンホール宮城 11月28日
☆Harp Festival 2014～仙台ハープフェスティバル 2014～ 11月28日
電力ホール 11月28日
☆第7回河北新報小・中学生紙上書道展

12月上旬 河北新報朝刊紙上
☆第53回洗心書道展 12月4日～7日
仙台市民会館
☆第22回宮城シニア美術展 12月18日～21日
宮城県美術館
☆第32回メサイアコンサート 12月20日
日立システムズホール仙台
会員の入賞・入選など
◇第99回院展 (日本画) 入選 三浦長悦
◇第5回ピエンナレウしく全国公募絵画展2014 入選 岩澤誠一
◇第68回二紀展(絵画の部) 準会員優賞 山家利治
▽準会員推挙 松宮榮典
受贈書 (は寄贈者)
(実りの秋) 菅原壽美子画集 (高橋威仙)、「歌集 思案の椿」(児玉かつ)
文芸部 (俳句) 古山のぼる殿 5月19日
文芸部 (俳句) 浜谷牧東子殿 8月9日
写真部 安海信幸殿 8月24日
文芸部 (俳句) 古内一吐殿 10月7日
書道部 秋元利治殿 10月23日

けやきの譜
芸協創立50周年の秋を彩った第51回宮城県芸術祭は、27日の閉会式で2ヵ月にわたる日程を終える。新理事長の下では初めての祭典だったが、同じく創立50周年の宮城県民会館と連携し、韓国大邱との交流事業を組み込んだ記念事業を行うなど多彩な展開になった。この間、長野・岐阜県境の御嶽山が噴火。57人が命を落とし、なお6人が不明のまま。10月初めには蔵王の「お釜」で水面の白濁が確認された。活火山は全国に110座もあり、東北でも蔵王をはじめ岩木山、岩手山、鳥海山、磐梯山などが常時監視対象になっている。この噴火をはじめ、夏から秋にかけては度重なる集中豪雨、広島などの土砂災害、大型台風18号、19号と自然の驚異を見せつけられた。畏敬とともに、畏怖の念を忘れないことである。▼またか、とも言われそうだが、書かないわけにもいかない。御嶽山噴火で混乱しているさなか、鈴木裕子さんの不慮の死から1年が過ぎた。大震災と同様、風化は困るのだが。(恂)